

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川
学校名	十三小学校
学校長名	前田 耕一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・十三小学校では、第6学年 30名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語については、A・B共に大阪市の平均を上回っており、1ポイント未満の差で全国平均に近づいている。Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、Bでは、「書くこと」で、全国平均を上回った。しかし、Aの「読むこと」に課題がある。

一方、算数については、A・B共に全国平均や大阪市平均を下回っており、課題が見られる。A・B共に「図形」は、全国平均を上回った。また、Aの「量と測定」は、全国平均を8ポイントも大きく上回ったが、Bでは6ポイント下回っているのが特徴的であり、「活用」に課題がある。「知識」に関しては、「数と計算」「数量関係」など、学習内容の定着をさらに図っていく必要がある。

無回答率は、国語A・B、算数A・B共に、大阪市平均、全国平均よりも半数に満たない程度にかなり低く抑えられている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕漢字の書き取りについては、平均を大きく上回っている。「書くこと」では、グラフを基に分かったことを的確に書く問題については、平均を23ポイントも上回っているが、目的や意図に応じて表を基に「自分の考えを書く問題」については、平均を10ポイント下回っており、「見つける」から「考える」にさらに書く力を深化充実していく必要がある。

さらに話し合い活動の充実を図り、互いの考えを練り合わせるような取組を進めることで、自分の考えを明確にしながら書いたり発表したりする力を育てていきたい。

〔算数〕数と計算や数量関係について、学習内容の定着に課題がある。また、単位量あたりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる力に課題がある。

習熟度別学習に工夫して取り組んできており、普段の授業では効果が上がってきているように感じるが、基礎・基本の定着にまだまだ課題が見られるので、学習プリント等の活用や家庭学習等での取組を通して、学習習慣がしっかりと身に着くように指導を継続していきたい。また、今後ICT機器の活用を図ることで、興味関心を深めるとともに、理解が進むように工夫していきたい。

質問紙調査より

自分にはよいところがあると思いますかの質問に、当てはまると答えた児童の割合が、大阪市・全国と比べて極めて低い。どちらかといえば当てはまるを含めても低く、過去を振り返ってもこのような傾向が見られる。発表は、得意な児童が多いのでさらに表現力を伸ばしていきたい。区でも取組を進めている睡眠時間の確保については、午後10時までに寝ることを自安としているが、これも大阪市や全国と比べると大きく差がある。家庭との連携を密にして、望ましい生活習慣の育成に努めたい。自分で計画的に勉強をすることや読書に親しむ態度などに課題が見られる。主体的に学習に取り組める子どもを、工夫して育てていきたい。そのことで、自律した子ども、自己肯定感を持つ子どもの育成をめざしたい。

習熟度別少人数指導や放課後も補充的な学習に熱心に取り組んできたが、結果に十分には反映できているとはいえない状況であるので、さらに話し合い活動を活発にすることで、しっかりと考える力が子どもに定着するよう努めたい。

今後の取組

学習規律の確立をめざした指導やユニバーサルデザインを取り入れた環境整備を今後も継続し、落ち着いた学習環境のもとで集中して学習に取り組めるようにしていく。

国語科では、「読みの観点」の習得・活用を通して、読む力を育て、「分かる」「できる」ようにしていく。また、音読や名文・詩文の暗唱をすることで、国語好きな子どもを増やしていく。

算数科では、習熟度別学習指導を充実させることで、特に学習に苦手意識を持っている子どもにきめ細やかに対応していく。さらに、時間配分を工夫することで練習問題を解く時間の確保に努め、基礎・基本の確実な定着を図る。

学習指導全般を通して、自分の考えを書く活動を多く取り入れ、ペア・グループ・全体交流をしながら、主体的・協働的な授業を推進していく。学習プリントやICT機器の活用を図る。

【 全体の概要 】

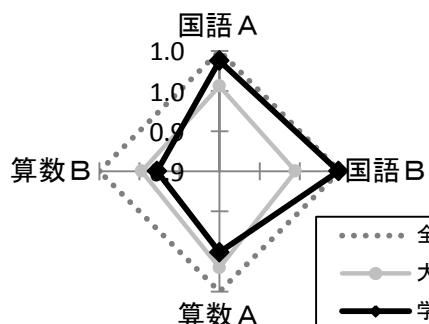
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	72.0	57.7	73.8	43.8
大阪市	69.7	54.6	75.3	44.7
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

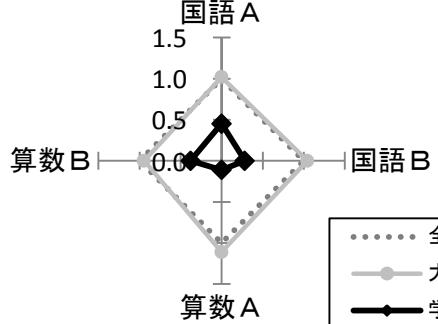
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	2.4	1.3	0.2	2.8
大阪市	5.4	4.8	2.0	7.0
全国	5.3	4.6	1.8	7.4

平均正答率(対全国比)

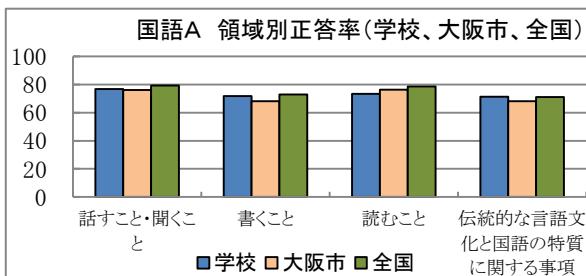


平均無解答率(対全国比)

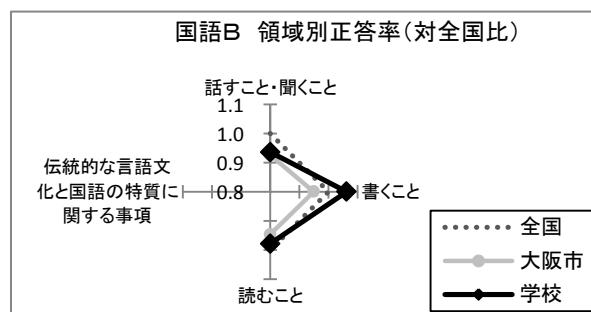
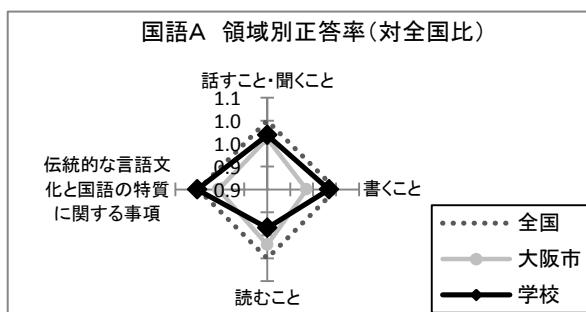
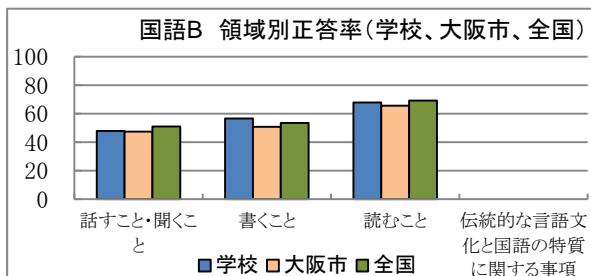


【 国 語 】

A 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	76.7	76.1	79.2
	書くこと	2	71.7	68.1	72.8
	読むこと	2	73.3	76.2	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	71.3	68.0	71.1



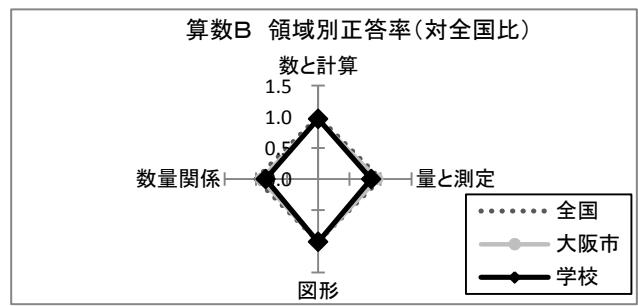
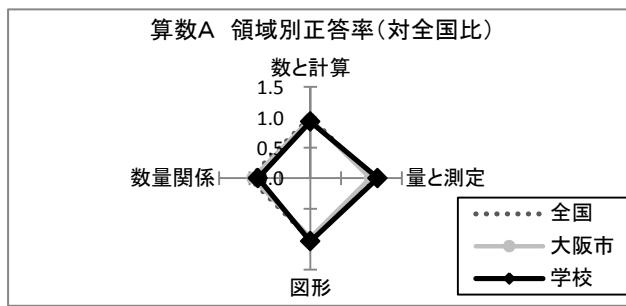
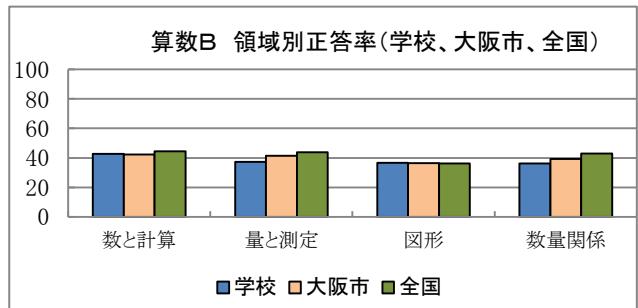
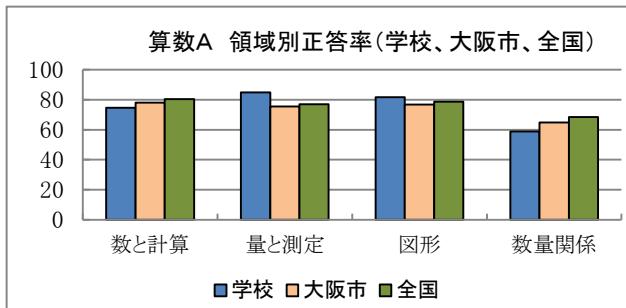
B 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	47.8	47.3	51.1
	書くこと	6	56.7	50.7	53.4
	読むこと	3	67.8	65.6	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—



【 算 数 】

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	10	74.7	78.1
	量と測定	2	85.0	75.6
	図形	2	81.7	76.8
	数量関係	3	58.9	64.8

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	6	42.8	42.3
	量と測定	5	37.3	41.5
	図形	3	36.7	36.5
	数量関係	6	36.1	39.2



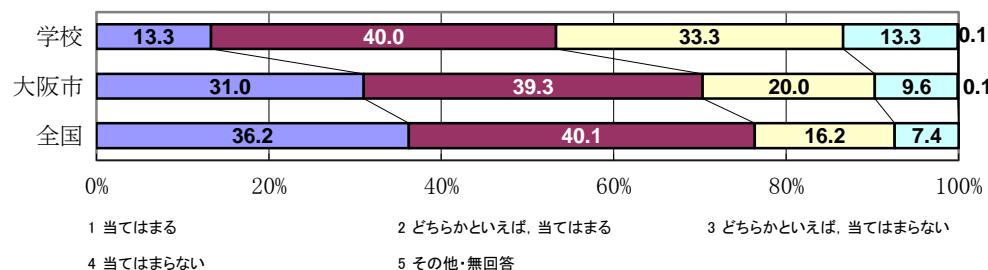
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9

質問番号
質問事項

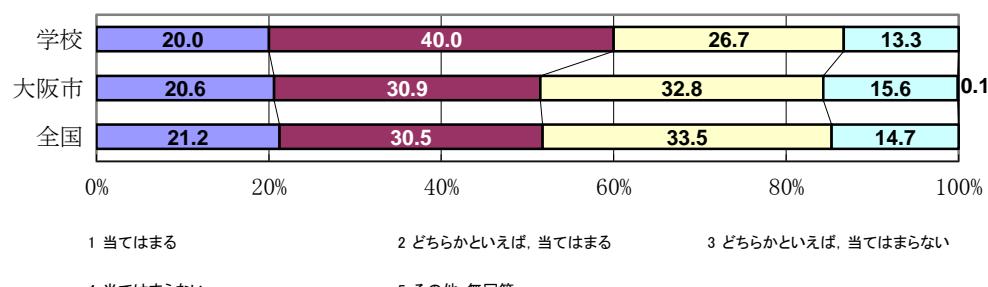
6

自分には、よいところがある
と思いますか



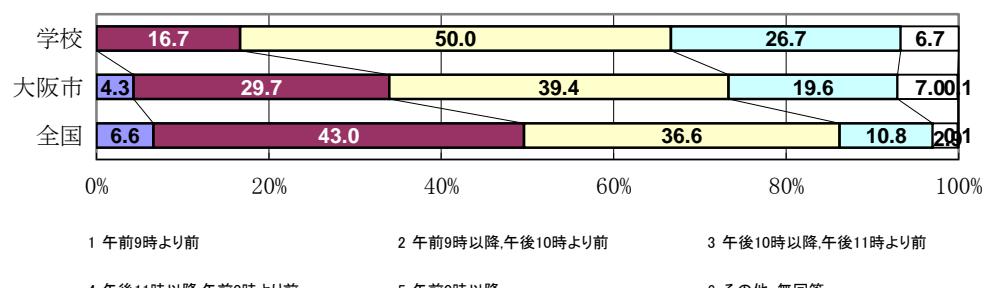
7

友達の前で自分の考えや
意見を発表することは得意
ですか



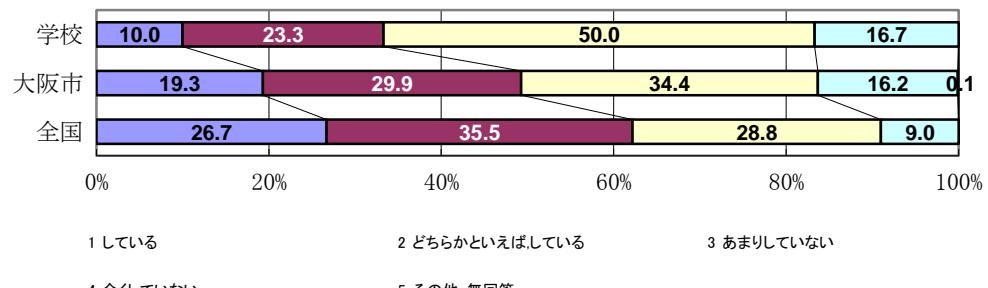
10

普段(月～金曜日), 何時
ごろに寝ますか



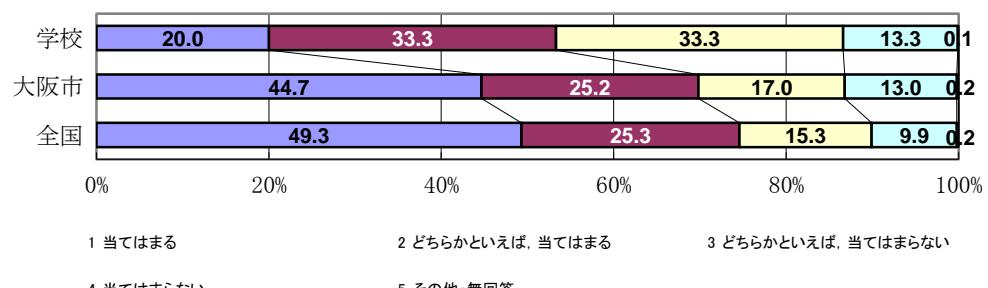
21

家で、自分で計画を立てて
勉強をしていますか



64

読書は好きですか



学校質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

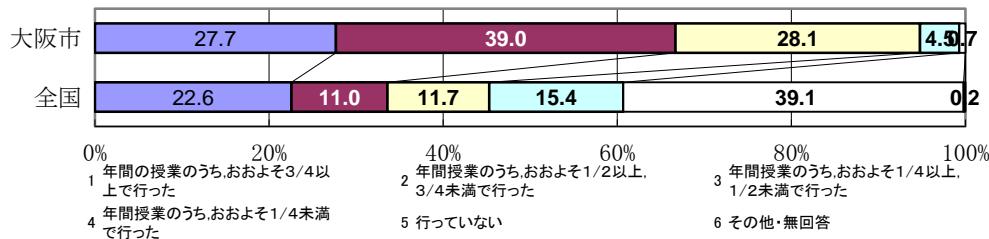
質問番号

質問事項

64

調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

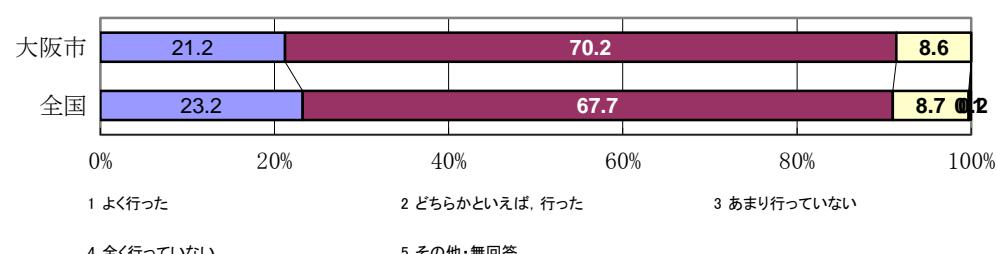
学校 「年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った」を選択



69

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか

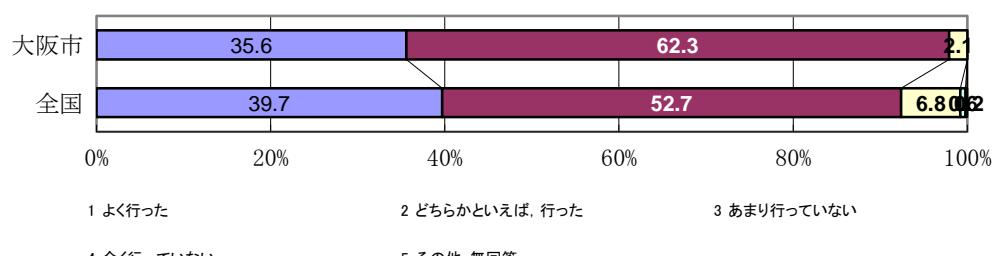
学校 「あまり行っていない」を選択



73

調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか

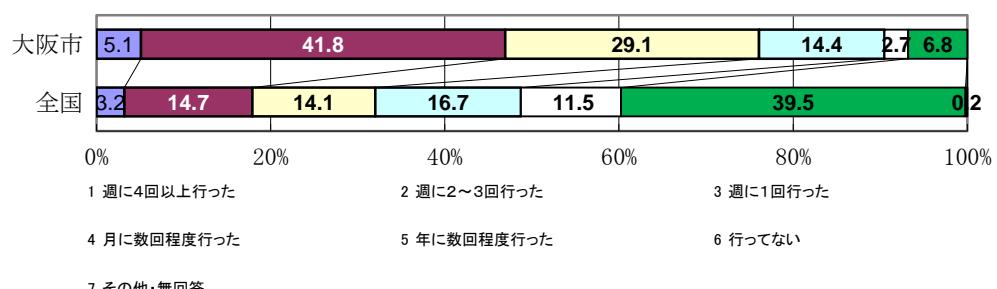
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



25

調査対象学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか

学校 「週に2~3回行った」を選択



19

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択

